



世界に希望を生み出そう

Vol. 62

No. 9

第2880例会
2023年9月12日号

WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2580地区

東京江東ロータリークラブ

2023~2024年度 テーマ

世界に希望を生み出そう

ロータリアンの心に火をつけよう Get the Joy of Rotary
RI会長 ゴードン R. マッキナリー 地区ガバナー 栃木 一夫

伝統と革新

~革新しながら伝統を守ろう~
クラブ会長 河西 史郎

今日の卓話

次回例会案内

イニシエーションスピーチ
大屋優子氏

キャリアコンサルティング(株)佐々木大輔様
「日本をよくする」

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp

例会報告

8/22 訂正出席率 73.91%

9/5 会員数 23名中5名
出席率 73.91%

ゲスト 【卓話者】 株式会社アジア市場開発
代表取締役 藤重太氏

ビジター 大阪南ロータリークラブ 米田 秀弥様
東京東ロータリークラブ 佐久間 賢治様
東京城東ロータリークラブ 宇都宮 秀雄様



会長・幹事報告



9月の行事予定

- ・2日(土) 地区米山奨学生合同研修 (於: 静岡県三島市)
(米山奨学生チャンティフォンさん参加)
- ・5日(火) 理事会・例会 【卓話】 プログラム委員会
株式会社 アジア市場開発 代表取締役 藤重太様 演題:
「日本人が知らない台湾の中の日本」
- ・国際ロータリー第 2660 地区: 大阪南ロータリークラブより
米田秀弥様が、メイクアップに来られております。
- ・11日(月) 江戸川ロータリークラブ 60周年例会 河西会長、
伊藤海幹事、伊藤三千男会員、鈴木隆雄会員、青木一男会員
が参加されます。

<委員会報告・その他>

【配布物】・ロータリーの友9月号・週報 NO.9

ニコニコボックス



河西会長: 先週のガバナー公式訪問お疲れ様でした。
伊藤海幹事: 藤先生、本日楽しみにしております。
菅澤君: 51年間お世話に成りました。今後もお世話に成ります。
伊藤(三)君: 9月に入っても暑さが過ぎ去りません、
体調管理に気を付けて頑張りましょう。
鈴木君: 藤重太様、お話を楽しみにしています。
青木君: カゼとコロナから復活しました。
小嶋君: 秋深し隣は何をする人ぞ!
小野君: 藤様、本日の卓話楽しみにしております。
大島君: 藤さん、宜しくお願いします。
田澤君: 藤様、本日の卓話を楽しみにしております。
板倉君: 卓話楽しみです。
大木君: 藤さん卓話よろしくお祈いします。
堀君: 今日もよろしくお祈いします。
大屋君: 藤さん、本日はよろしくお祈いします。

合計 52,000 円
累計 472,000 円



2023年9月のロータリーレポート [1ドル146円]

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL: 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日12時30分~13時30分
●事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL: 03(5632)3777 FAX: 03(5632)3737



世界に希望を生み出そう

WEEKLY REPORT 東京江東ロータリークラブ



「日本人が知らない台湾の中の日本」

(株)アジア市場開発 代表取締役 藤 重太 様



東京江東ロータリークラブに皆さま、こんにちは。この度は、幹事の伊藤海さまよりお話しをいただき、皆さまの前でお話しをさせて頂く機会を頂きました。大変光栄に存じます。私は千葉県成田高校を卒業した後、18歳で単身台湾に渡り、中国語を学び、国立台湾大学を卒業しました。その後、起業してから28年、ずっと日本と台湾の間のビジネス交流などを行っております。その間、台湾の政府系シンクタンクの顧問や講談社の台湾子会社の総経理(社長)なども歴任しました。また、ときどき産経新聞社の正論などでも寄稿をしています。現在でも、日台の企業の顧問や各種講演会や台湾ツアーなども行っています。

台湾について、日本と台湾のつながりについてお話しさせていただきます。日清戦争の勝利した日本は下関条約で台湾を割譲しました。1895年6月11日に日本は台湾台北に入場しています。私は、台湾歴史ツアーなどする時は、この北門からスタートする場合も少なくありません。2020年1月には作家の門田隆将先生とも台湾ツアーを行いました。台湾には今でも多くの日本時代の施設が残っています。台湾総督府、台湾大学病院、台中駅、台北や台湾の町並みの中にも色々な日本が残っております。

ここでわたくしが強調したい点は、西洋の植民地政策と日本の植民地経営はまったく異なるという点です。西洋の植民地は搾取、奴隷制度。弾圧や色々な差別によって行われました。では、日本は1895年当時台湾で最初に何を行ったでしょうか。それは教育です。プチ統治が始まるとすぐに7人の教育者が台湾に入り台北市内で学堂を開いています。しかし残念ながら六名が1896年の1月お正月に現地のゲリラに襲われて殉職するという事件が起きています。今の日本なら「そんな危ないところには行かない方が良く、撤退だ」となるところですが、当時の日本人はそれなら私が台湾に行こうと多くの日本教員が台湾に渡り、教育に従事しました。現地には、「教育者の聖地」として、芝山巖神社が建てられて六氏先生として祀られていました。その後、日本の敗戦でいろいろありま

したが、今でも伊藤博文の書いた「学務官僚遭難の地」碑文が建っています。

このように日本の台湾、韓国、樺太、南洋諸島での植民地経営は、同じ皇民化を目指すモノであり、特に台湾では、鉄道、上下水道、学校制度、郵便電気など文明を与えるものでした。西洋の植民地支配とはまったく違うものだったのです。私の台湾大学の恩師は「日本は世界で唯一、文明文化、制度法律で共存共栄を目指した植民地経営を成功させた国だから、日本人はあの東亜時代の植民地政策を誇っても良い」と言われました。次に皆様は台湾で最も高い山をご存知でしょうか。日本富士山より高い3952mの玉山と現在は呼ばれているのですが、日本統治時代は何と呼ばれたかご存知でしょうか。「ニイタカヤマ登れトラトラトラ」の新高山と呼ばれていました。しかもこの新高山の命名者は明治天皇です。この新高山をお題として明治天皇は三首の御製を詠われています。

明治天皇御製

晴れ渡る 空に向かいて 思うかな 新高山の
月はいかにと 明治34年

新高の山の麓の民草も 茂にまきると 聞くぞ
嬉しき 明治42年

新高の山より奥にいつの日か 移し植えべき
我が教え草 明治43年

明治天皇が台湾の臣民を日本人として如何に大切にしていたかが分かります。日本教育を受けた台湾の老人もとても有り難く、誇りに思っていると言う話しを聞かせてくれたことを思い出します。近代に於いて、日本は台湾で「シラス」※の国家統治を実際に行ったと言っても過言ではないでしょう。

台湾は国連が毎年行う「世界幸福度ランキング」で東アジア1位であることを皆さんはご存知でしょうか。台湾(26位)は日本(54位)よりも幸福度が高いのです。台湾有事や中国の脅威があるのにも関わらずなぜでしょうか。このお話はまたの機会がある時にお話ししたいと思います。ただ、台湾には日本が無くしたかもしれない、色々なものが残っているような気がします。また、台湾から学べるものもたくさんあります。ぜひ、本当の親日国である台湾との交流を深めて、日本の生命線である台湾と新しい時代を皆さんが先頭に立って作っていただくことをお願いして、お話しを終わります。ご清聴ありがとうございました。

※「シラス」の統治とは、武力や権力で「力の支配」を行うのではなく、国を「家」・国民を「家族」と捉え、天皇が国と民に深い関心を持って幸せな国造りを行う考え

藤 重太

株式会社アジア市場開発 代表

台湾富吉国際管理経営顧問有限公司 代表

日本李登輝友の会 常務理事 台湾日本研究院 主任研究員 (台湾)

「中国ビジネスは台湾人と共に行け」(小学館 2003年)

「国会議員に読ませたい

台湾のコロナ戦」(産経新聞出版 2020年) 他